

日韓トンネル通信

編集/発行

特定非営利活動法人
日韓トンネル研究会

本部事務局：東京都港区麻布台1-1-20
〒106-0041 麻布台ユニハウス513
TEL 03-3589-4188 FAX 03-5570-1634
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：0120-09-2188

(報告)釜山～巨済間連結道路の建設工事現場を視察しました。

去る5月15日(火)、韓国第2の大都市プサン市(釜山市)のカドック島(加徳島)と、韓国第2の面積をもつコジエド(巨済島)を結ぶ「釜山～巨済間連結道路の建設工事現場を視察した。両地域は日韓トンネルの韓国側出入口口となる可能性があり、両地域の交通アクセス改善は日韓トンネル計画を後押しすると見られている。視察団は野沢太三会長、濱建介副会長ら日本側6名と国際ハイウェイ研究会のコ・カンソ(高冠瑞)副会長ら韓国側2名である。

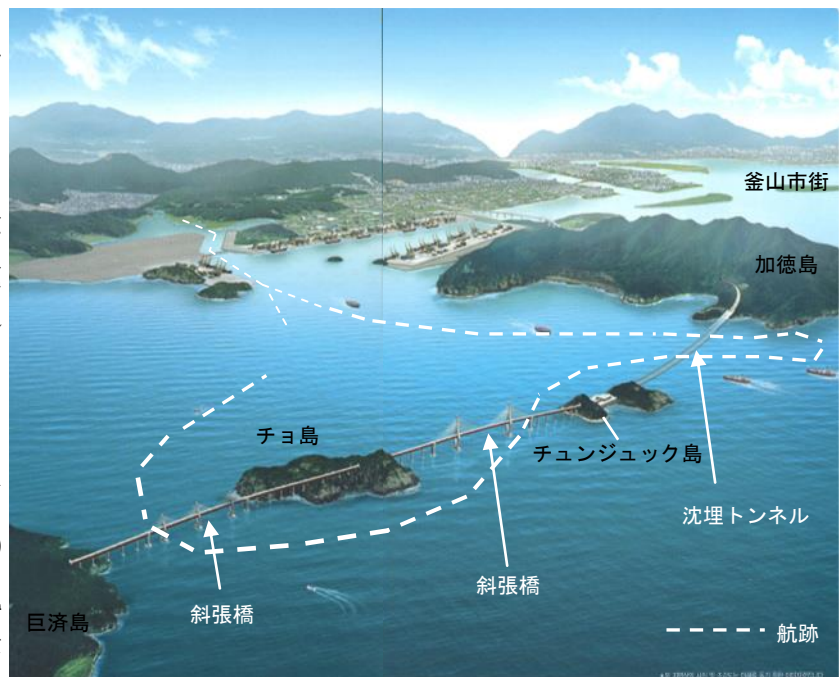
一行はまず現場近くにある広報館で展示物を見学した。事業概要は、建設期間が2004年から2010年までの7年間で、運用期間が2011年から2050年までの40年間、総工費が1兆3197億ウォン(約1800億円)、総延長8204mで、主要な施設は斜張橋3.5km、沈埋トンネル3.7km、陸上トンネルなどが1.0kmとなっている。

本ルートが開通すると釜山市と巨済島間の距離は現在の140kmから60kmに、所要時間が現在の3時間30分から40分に大幅短縮される見込みだ。



広報館を見学する一行

広報館を見学後、一行は船着場から乗船し約2時間ほど海上から各工事現場を視察した。斜張橋の橋脚下部構造は一部が完成しており陸上トンネルも掘削が進んでいるようだ。また工事で得られる各種地形地質情報な



海上から視察した航跡(広報館のパフレットに航跡と地名を記入した)



斜張橋の橋脚部分



チュンジュック島に建設されたトンネルの坑口

どは日韓トンネル計画の参考になるものとみられ、関心呼びそうだ。

(報 告)ソウルで開かれた展示会「DEMEX2007」に出展しました。

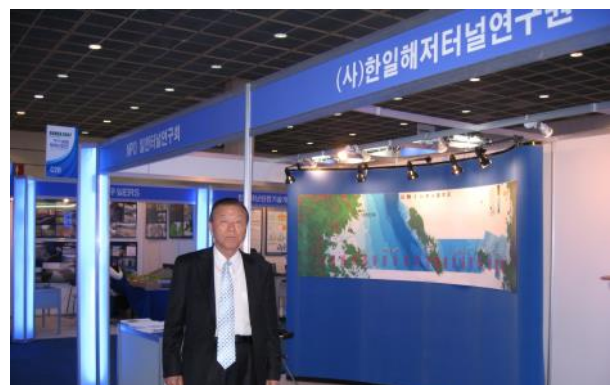
去る5月22日(火)から25日(金)までの4日間、ソウル市のコーエックス(COEX)で開かれた「EMEX2007(第1回国際防災産業展)」にて、広く一般に日韓トンネルを紹介した。

「EMEX2007」は特殊法人韓国防災協会などにより組織される国際防災産業組織委員会が主催し、85社の企業が130ブースで災害低減施設や救護救援の物資やシステムなどを展示をしていた。

当会ブースの広さは3m×6mで、日韓トンネルの基本図(幅3m)を展示した。また当会のパンフレット(日本語)、冊子や機関紙(韓国語)を配布した。また日韓トンネルのパワーポイント展示も行った。

来場者は初日と2日目は防災事業の関係者が多く、3日目と4日目は家族連れや大学生など一般の来場者が目立った。

防災に関する展示会であったため、「日韓トンネル」が何故展示してあるのか不思議に思っている様子も見られるたが、実現の可能性や現在の進展状況などについての質問もあった。4日間のブース訪問者は約150名で配布したパンフレットの部数は約200部であった。



DEMEX2007に出展した当会のブース

(報 告)東京本部の第4回通常総会が行われました。

東京本部の第4回通常総会が、5月30日(水)、アルカディア市ヶ谷私学会館で開催された。韓国側からは来賓として国際ハイウェイ研究会のユン・セウォン(尹世元)会長、韓日トンネル技術研究会のソン・ベクチョン(成百詮)会長、社団法人韓日海底トンネル研究院のパク・キョンブ(朴慶夫)理事長が出席した。

議長として野澤太三会長が選出され議事に入り、まず平成18年度の事業報告として下記11項目が報告された。

- ①対馬、壱岐、呼子、唐津の現地査察
- ②佐賀県知事表敬訪問
- ③福岡県知事表敬訪問
- ④韓国側関連団体表敬訪問
- ⑤社団法人韓日海底トンネル研究院との合意書締結
- ⑥インフラテック2006展示会に出展
- ⑦ユーロトンネル社表敬訪問と現地視察
- ⑧中華人民共和国亜太交流協会関係者来日
- ⑨ルート検討委員会の発足と開催
- ⑩韓日トンネル研究開発セミナーに参加
- ⑪日韓トンネル計画の講演
- ⑫韓日国際シンポジウムに参加
- ⑬第1回国際防災産業展に出展

次に平成18年度の事業会計収支決算の報告があり承認された。平成19年度事業計画は、日韓トンネルルート案の一本化、建設資金調達方法や社会経済的役割などの研究、韓国沿岸域の海洋調査データの収集などの調査・研究事業、韓国側関連団体との共同研究などの国際協力事業の他、社会教育事業や情報収集・提供事業、刊行紙の発行事業内容が審議され承認された。次に平成19年度事業会計収支予算案を審議し承認された。最後に平成19年度役員の変更案を審議し承認され、総会を終えた。

議事終了後、野澤太三会長が「韓国訪問およびユーロトンネル視察などを踏まえて」という題で会長報告を行った。韓国訪問では、



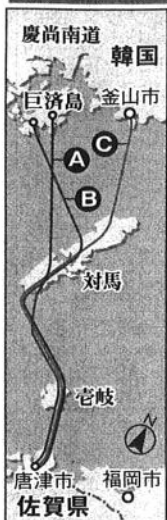
第4回通常総会

昨年10月に釜山市長と慶尚南道知事への表敬訪問で日韓トンネル建設に関し前向きに対話したこと、および今年の2月と4月にそれぞれソウルと釜山市で日韓トンネルに関するセミナーとシンポジウムに参加したことが報告された。今後の課題として、日韓トンネルの掘削と維持を含めた技術的課題と、トンネルの使用法と維持管理費を含めたフィジビリティ・スタディの必要性が提案された。またユーロトンネル視察結果から得られた課題として、ユーロトンネルで使用した前面閉塞型泥水加圧式の高速度掘削マシンを日韓トンネルへの適用検討、トンネル内の湧水対策などといった技術的側面と、シャトル列車の乗換ヤードの確保や建設のための無償資金調達のための公共支援の確保や建設と運営の上下分離など運営会社の負担軽減策等、資金や運営面からの提言があった。

(記事紹介) 日韓トンネル計画に関連する新聞・雑誌掲載記事を紹介します。今回は次の1点です。

・ 読売新聞 2007年6月4日

日韓海底トンネル構想



釜山 議論白熱

韓国・釜山市で九州北部と韓国南部をつなぐ日韓海底トンネル建設構想を巡る議論が白熱している。許南植市長が陣頭指揮をとり、国際シンポジウムや職員の研究会を相次いで開催。トンネルが釜山の将来に有益かどうかを焦点に論戦が展開されている。九州北部各県は「構想というよりまた空想のレベルでは」と、対岸の性急な動きに当惑している。

国際シンポジウム研究会相次ぐ

釜山市の外郭団体「釜山発展研究院」が5月14日、同市で開催した国際シンポジウムでは、賛否が真っ向からぶつかった。

ホ・ジェウン中央大教授は「英仏をつなぐユーロトンネルの例を見ても、日韓トンネルが釜山の競争力を強化させるのは明らか」と主張。釜山発展研究院のホ・ユンス副研究委員は「釜山が付加価値の高い製品の物流基地になれば、トンネルの活用度は高まるが、釜山がそこまでの拠点都市になる可能性は低い」と述べた。日本から招待されたNPO「日韓トンネル研究会」の野沢太三会長(元法相)は

「夢あるが…」九州側静観

日韓海底トンネル建設構想源流は1940年(昭和15年)、旧鉄道省が策定した東京から朝鮮半島を経由して北京まで走る「大陸横断弾丸列車計画」の一部にあたる「朝鮮海峡トンネル」。1983年5月に設立された日韓トンネル研究会(東京)は、佐賀県唐津市から釜山または慶尚南道・巨済島に至る3ルート案(ソウルの社団法人「韓国海底トンネル研究院」に提示。全長209~231キロで英仏間のユーロトンネル(50.5キロ)の4倍以上、青函トンネル(53.8キロ)を抜き世界最長となる。90年以降、海部俊樹首相や盧泰愚大統領(いずれも当時)ら首脳が未来構想として言及してきたが、①地質、地形調査が済んでいない②事業の採算性が不透明③北朝鮮問題など安全保障面の環境も整っていない—などの理由で政府間協議に至っていない。

「トンネルの利便性が最も強く及ぶ範囲は100~300キロの圏内。大都市・釜山を中心として活用すべきだ。日本では九州が最大受益地域になる」と指摘した。釜山市での議論は、許市長が2月の記者会見で「釜山市が当事者になる可能性があり、真剣に検討する必要がある」と表明して火がついた。市は、長崎県にト

ンネルに関する日本の報道を照会するなど情報収集も進め、市職員による研究会は4月13日に続き、今月8日にも開かれる予定だ。現地紙は、専門家の賛否両論を紹介する特集を組み、反対派市民が「釜山が単なる経由地に転落する」と集会やデモも繰り広げると騒ぎも起きている。韓国では今年1月、年末の大統領選に一時出馬を取りざたされていた高建元首相が、対立候補の大型事業計画案に対抗して日韓海底トンネル建設を公約に掲げると報じられ話題となった。これまで議論の主導権を隣接する慶尚南道に握られていた経緯もあり、釜山市は出遅れた危機感から、

損得を見極める長期的研究に着手した」としている。これに対し、九州北部各県は、建設費が10兆円を超えることも予想されることから、慎重姿勢を崩していない。同研究会が示す3試案で日本側の出入り口となっている佐賀県は夢はあるが、財政負担が回ってこなければ別(県土づくり本部)と静観の構え。福岡空港と博多港を抱え、すでに九州

読 賣 新 聞

発行所
読売新聞西部本社
第15241号
〒810-8581
福岡市中央区赤坂1-16-5
電話 (092)715-4311(代)
http://www.yomiuri.co.jp/

2007年(平成19年)6月4日 月曜日

きょうの紙面

総合	23	経済	7
国際	5		
気流	10		
運動	20 21 23 24		
家庭	学び	12 15 16	
文化	27	小説	11
基・将棋	24	地域	33



日韓トンネル構想 釜山白熱 35
象牙の対日輸出解禁 25
孫文を支援 梅屋庄吉、上海で脚光 34
▷歌壇俳優 28
優勝決定、ベンチを飛び出す早大の選手(左から2人目斎藤投手) 20 30

の玄関口となっている福岡県は「船や飛行機は色々な都市を結ぶが、トンネルだと一対一に固定される」(県国際交流局)と否定的だ。長崎県は「実現性に疑問がある現段階で、賛否は表明しない」(県地域振興部)と議論を手控えている。